

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふれあいきつず読谷			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 10日 ~ R7年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27件	(回答者数)	27件
○従業者評価実施期間	R7年 1月 10日 ~ R7年 3月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 5月 17日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援環境の整備	生活空間が清潔で、こどもたちが心地よく過ごせる環境が整備されている。 障害特性に応じたバリアフリー化や情報伝達への配慮が適切に行われている。	スペースの利用方法を定期的に見直し、こどもの活動に合わせた柔軟な配置を検討する。
2	活動プログラムの工夫	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている。	定期的にプログラムの内容を見直し、新しいアクティビティを導入する。
3	保護者との連携と情報共有	LINEや送り時に当日の様子を伝えるなど、保護者との情報共有が積極的に行われている。 こどもの状況について保護者と共通理解を持つための取り組みが行われている。	保護者向け説明会やワークショップの開催を検討し、支援内容や計画についての理解を深める機会を提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの不足	ペアレンツ・トレーニングや家族向け研修の実施が十分ではない。 家族同士やきょうだい同士の交流の機会が少ない。	ペアレンツ・トレーニングや家族向けイベントの開催を検討し、家族間の交流を促進する。
2	地域との連携不足	地域住民を招待する行事や地域との交流が限定的である。 地域の児童発達支援センターとの連携が十分ではない。	地域住民を対象としたイベントやワークショップの開催を検討し、地域との関係を深める。
3	非常時対応の周知不足	緊急時の避難場所や対応について、保護者への説明が不十分。 非常災害時の訓練が保護者に十分伝わっていない。	避難計画や訓練内容を共有する。 災害時の避難計画を具体的に説明する機会を設け、保護者に安心感を与える。